



島津幸広衆議院議員、中野たけし北勢地区委員長と 新年の訴え

と

0)

誤

解

Ł

生

ま

れ

7

が

1

る

とをとり上げ、

な

鈴鹿市議会議員(日本共産党) 発行 2017 年 1 月 1 日 252 号 森川ヤスエの市政だより

鈴鹿市矢橋 3-10-34 電話:384-3740,

fax:384-2907

URL: http://blog.ymorikawa.net/

学校給食への公費投入は 市の判断でできる

方、

及び義務教育

O

保

提

供

することが

法

律

する文部科学省

0)

見

では

給

食

会

計

0)

あ

り

は

保

護

者

0)

給

食

費

で

体

の裁量でできる」

と

月

議

会

般

質

間

会

見

で、

学

校

給

食

る

かどうかは、

各自治

方 は 7 取 針 者 市 給 り を 長 食 上げまし 撤 担担 会 が 計 軽減 給 口 す 食 に る 中 つ に た。 記 止 い つ 者 7 0) 公費 と れ で

学校給食法に

より

答弁

昭和

九年

は投入できな

文部事

務次官通達に、

同

法

できず」

と発

言

*

識

を質

しま

た。

定められ

公費

を

投

解を示して市長

0

が Ł 0) に デ 0) 5 誤 配信されました。 公 イ 費 とで 誤 仕 アを通 解 方 投 B つ が 入 玉 市 た な 民 じ な 民 解 7 願 釈 0) 0) い 全 中 が 中 0 1 そ か な で 玉 メ で は と 0) 公 施行令の規定は、 学校給食法及び

部

を

補

助

す

る

で

共

寸

体

等

が

給

食

費

圳

公 費 な を 禁 い」とあ 負 担 止 B す る るの 意 部 補 図

助

で 公 と認識が きな 費投入 (J は わ 7 出 け 1 で る は

そ

れ

は

間

違

(1

で、

給

食

費

に

公費を投入す

ことを認めました。

軽減について三点義務教育の保護者負担

した。

①給食費補助

ます。 額補助、 検討することを求めま 多子世帯への 補助なども広がってい 象にした一 が無償になりました。 長浜市でも小学校給食 昨年九月から、 学校が増えてい 給食を無償で実施する て支援の立場から学校 さらに、 全国を見ると、 鈴鹿市もせめて 多子世帯への 部補 全児童を対 補 滋賀県 助から 贳 、ます。 子育 半 した。 在行っている。

答弁: 財政面での 負担

く。 慮しながら、時間をか や近隣市の状況等も考 と消極的な答弁で

②制服などのリユース について

さに驚き、 て、 護者から相談を受け 小学六年生を持つ保 保護者負担の大き せめて制服

組んではどうかと提案 などのリユースを取 しました。①学校で現 ń

け 時 ているとのことです に呼び 掛

に

保護者

が、 多いこと、卒業時では 知らない保護者も

けも含めて3年間いつ・ 大きなサイズになる で買い替え時 の呼びか 0)

でもだれでも 提供や

ことを求めました。 こと、ひろく広報する 育委員会が窓口になる 利用が出来るよう、教

② 卒 業 保護者や学校にとって 答弁:制服等の指定や 校が直接 考えると, 入学後の支援のことを 保護者と学 話 した方が

に合うよう三月の支給

く。 後も 有効と考えるので, 取組を継続してい

③就学援助制度の改善 について

代です。入学準備費用 備金は入学前準備に間 中で支払われる入学準 め に は全国的に大きく問題 となどが報道される時 席できない子がい ができずに入学式 の保護者負担の大きさ なっ 全 て就学援 国 的にも入学準備 7 い 助 ま 制度 す。 るこ に出 0) 世

議 会に た。 引き続き質 九 月 議会答 弁 ま で

に

改

善

す

ることを

九

月

年

か

Š

実施

す

る

0)

か

を質

修 体 は な い システ 1 改

平成三〇年からっ

7

は

県

內

での実施

自治

しました。

化 ま され デ い る。 1)

度の

新入生に

対

7

中

に届け うことで、 必要な とき

では な 1 か 九 月 か 5

間 二月 に 県内 Oでも平成二九 わ ず か \equiv か 月

市 など増えてい はどうする

費 に 費 用 が . 掛 か る

の

んびりしすぎでは

تع

答弁

. .

新

中

学

年

生

に

な た 0) が、 理 由 費 が 用 挙 げ は 予算 られ

つい

ては、

平成

年

0

要な方に届 け る か とい

学、

入学前支給

 \mathcal{O}

実

施

に

向

けて

現

在

検

討

を

て喜ば れ る 方が

制 度 0)

趣 旨 に か な うの 新

行

0)

進め

Ź

る。

小 学 年 生 は

電 算システ L 0) 中

で運

テム改修が必要か 用 が 口 能 か、 **等** ス 現 え 桑

7

い

<

中で

ル鑑賞

る自 治 鈴 鹿 体 導 検 入 7

あ る。 。 今後、 電 算 シ

施 テ ムで てい 0) る他 運用 を既 市 0) 事 に 例

引 等 き Ł 参考 に な が

いく 九 月 の議会での質問

時 ま で は 県下 でゼ

口 実 施 だ つ た 自

自 度 体 治 名 か 数 体 5 市 で な す す 四 ど が \exists 始 市 が 九 め 市 る 年

年 増 治 2016年森川ヤスエ12がつのあゆみ 相談活動他 スタンディング 広域連合議会出席、新婦人 18 会議、訪問活動 まつりお誘いなど 新婦人まつり準備他 名活動参加 新婦人まつり参加 ニュース配布活動 議案質疑(森川) 布活動 本会議(一般質問) 本会議(一般質問) 本会議(森川一般質問日) ニュース配布活動 本会議(一般質問)予算決 同上 25 10 会議、吹奏楽フェスティバ

証 に 等 向 が け + . 分 は で 課 なく、 題 が

遅

5

せ

て 三 〇

年

か

5

L

か

取

り

組

め

な

と

う、

何

事

Ł

消

極

的

な

対

実

応で残念です

市

長

0)

子育て

施策優

先

と

ス

5

1

ド感を持

つ

た

市

政

続

き 調 査 研 究 た

運営とは少

か

け

離

れ

7 い る 0) で は な

() で

ようか。

予算決算委員会、市民の会署 党市議員団会議、ニュース配 本会議森川討論日、全員協議 地方自治ってなんだ?学習会 予算要求書提出、街頭宣伝活動 ュース配布活動 母親大会実行委員会市長懇談 参加、訪問活動 ニュース配布活動、会議 CTL参加、ニュース配布活 28 訪問活動他

に採月 択支を 的 いて 給 止 に 在 関 を求める意 め â す **0** 支給 ことと、 る 額 願 見書 の 減 毎

際 を に 寸 結果は賛成三反対二八 することを求めま 国 で否決されました。 私は、 行 次 を代 に して学ん 対 い 表 請 内容 Ú 日 て意見 願 本共 だ事 で賛 て、 に 賛 産 書 成 同 を 審 党 提出 討 中 議 L 市 た。 7 論 心 に 議

ク は 強 九二 П 先 経済 日 決 口 閉 スライ 几 さ . 臨 会 れ 時 年 た 玉 ドで抑 ま 年 会 た で 金法 第

> 治 活 とわか 制 を行 水 を 準 りました。 ゙づけ、 うというこ を引き下 玉 げ 民 とだ る 0) 政 生

> > が

L

活給です。 年金は高齢者世帯 の 生

す

, 0

生

支え 低 物 治 (1) 0) 金 高 0) で 7 生活 特 生 下 削 齝 を 体 () 本 い 来年 性 る するとい 活 る。 さ 減 化 る 0) 給 役 を支える か 地 せ は が 税 5 · 金 割 (2)0) 域 る 圳 進 収 を持 地 地 役 は 事 域 で む 、う高 域 方 割 0) に 経 3 ほ 経 で な 大 高 ど 買 つ 済 住 事 齢 済 齢 は 扣 な な 年 者 自 な 者 (4) を 1 つ

> 活 た る。 0) 低 若 年 水 す 4 準 者 金 ぎ を 世 基 下 る 引 代 準 げ 年 き 0) 額 止 金 げ 年 は ま は、 ま 金 現 り れ 金 用 財 る L

在

経 世 済 界 大国な で 1 ップ が 5 クラス 年 0) 金

で

社 と、 も 会生 に 生活するように 進 なってしまい 活 步 する文 か ら程 化 遠 、ます。 的 (1 \mathcal{O} な

普 通 に暮らせる年金を

0) L 1 を保 が 進 う 年 歩 で 金 0) きる 制 に で 度を 見 あ ょ 合 れ う ば、 見 つ 直 最 た す 暮 低 社 会 牛 5

活

障

す

年

金

0)

引

7

()

ま

す

社

会

0)

経

済

高

齢

者

0

生

活苦を

広

げ

き上げこそ必要です

サ

イクル

に

見合

つ

た毎

働 年 賃 < 金 金 を を びとを正 積 保 み立 障 規 7 5 年 雇

環境 とが必要と考えます。 を 源 構 を 築 確 保 7 す る 7 労 \langle 働

年金は毎月支給を

な غ る ぬ支出 葬祭や イ 7 ク () か 社会経済の 月 ル る 0) 病 0) 中 サ 対応 支給 気など予 で、 イ ク が難 仕 ル は か 組 で 期 月 冠 3 口 4 が 婚 サ 0

借 治 療 金 をあきらめた を 重 ね た り、 り 病 気